

ささえあい

<14>

「共生」未来へ

住まいのヒント

素があると生きられない生命体と酸素が必要な生命体のせめぎ合いから、新しい生命体が生まれたと考えられています。

供給しています。一方、一本の映画に出合いました。脳性マヒの障害を持つて生まれ、寝たきりで全面介助を受けながら、一人で生活している遠藤

それは二種類の異なった生命体の一つの細胞中から始まりました。新しい生命体は私たちヒトをはじめ、地球上の今の動物、植物の祖先になりました。私たちの体の細胞に、その証拠は引き継がれていて、一個の肝細胞に数千個のミトコンドリアと呼ばれる小器官として存在しています。ミト

異質なものが互いに支え合う「共生」から生まれたと考えられる私たちの命。国境・人種を超えた人間同士の「共生」、さらに太古の祖先

遠藤さんは延べ千人を超す若者による介護で支えられていました。介護をしてくれた若者には時給数百円が支払われているといっても、なぜ遠藤さんの介護に若者が集まるのか。それがこの映画の見どころであり、それが遠藤さんの価値とと思いました。二度この映画を見て分かったことは、遠藤さんは「自立したしなやかな強い精神」を持っているということでした。

地球は今から四十六億年前に誕生し、生命は四十億年前に誕生したといわれています。その後、それまで空气中に酸素がなかった時代から、酸素が存在する時代が変わる二十五億年前ごろに、酸

吸で取り込むほとんどの酸素を消費して、人間社会の電力に相当するATPという高エネルギー物質をつくりだし、細胞に



県介護福祉士会・在宅介護研修センター(新潟市)で地域の人たちと「快適住まい環境研究会」メンバーとの交流会。そこには地域における「共生」があった

自 立

しなやかな強い精神

遠藤さんは言語障害もあり、会話は聞き取りにくいのですが、やっと語る短い言葉に、介護する若者は自分の進むべき道を教えられるのです。「共生」に必要なものの一つは「自立」であることを知りました。

を同じくする動物や植物と人間との「共生」は、根源的な生命の本来の姿のように思っています。

「人間は生きているだけで価値がある」とよくいわれます。それでは、食事から排せつまで、すべてを介護に頼っている人の価値は何でしょうか。それを考えていたときに

大教授(上越市) (杉田収・県立看護短

おわり